

死刑の賛否に影響する日韓の世界観

著者 中村晏子・堀江駿介・小暮謙仁・ピョンクムジュ
所属先 慶応義塾大学経済学部3年生

目次

1. はじめに
2. 先行研究
 - i. 死刑の賛否に影響する要因
 - ii. 日韓の死刑の比較
3. 方法
 - i. 質問項目
 - ii. 調査方法
4. 研究結果および考察

1. はじめに

昨今において、死刑は国際的な逆風にさらされている。法が統制されてから今まで、先進国をはじめとする多くの国々で死刑は極刑として犯罪者を罰してきた。法が統制される前においてすら、死は最大の罰として与えられるものであり、多くの歴人が死刑に処されてきた。このように現代人にとって死刑は当たり前のように存在し続けてきた。にもかかわらず、世界的に死刑撤廃が叫ばれている。2015年現在の時点で、140の国と地域で死刑は実質的に廃止されているというデータがアムネスティにあるように、今や過半数の国と地域が死刑を撤廃している。その中にはEU諸国などの先進国も含まれており、それどころか「先進国の中で死刑存置しているのは日本とアメリカだけ」と言われることもある。世界は確実に死刑撤廃へと進んでいるのだ。このような風潮には様々な理由が考えられるが、私たちはその中で人々の世界観の変化に焦点を絞って、原因究明を行った。ここで、世界観とは「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質についての認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組み」(Hiebert,2008)である。

さて、死刑存廃論は様々な観点から論じられてきた。「死刑をめぐる論点」

(2009)によると、死刑の持つ犯罪抑止力、合憲か違憲か、被害者遺族の感情、凶悪犯罪者の再犯危険性など様々な根拠から論じられている。ここで、私たちは「犯罪者の命の尊重」と「排他主義」という2つの世界観に着目した。

まず、「犯罪者の命の尊重」とは、「犯罪者の命を一般人の命と比べてどのくらい大切だと評価するか」と定義した。なので、この世界観を強く持つ人ほど死刑に反対すると考えた。

排他主義とは「自分と自分の仲間以外のものを容易に受け入れず、むしろ排斥するあり方や態度。他を排斥する主義」と辞書では定義されている。私たちは、排他主義という世界観を強く持つ人ほど、社会という共同体から犯罪者という異端者を締め出す、つまり死刑を求めると考えた。なので、私たちは排他主義を「自分や自分の所属する共同体にそぐわないものは排除すべきだ」という確信」という世界観と定義した。

私たちはこの2つの確信が強い人ほど、犯罪者の命でも奪ってはならない、つまり死刑に反対すると考えた。もし排他主義が与える死刑の賛否への影響が確認できたら、死刑の在り方を社会の閉塞性という観点から考えることができる。また、死刑を採用している国もしていない国も将来的な法の新たな形を予測する観点を提供することができる。これによって、未だ法が整っていない途上国の法整備にも、その国の国民性や民族性を分析することで応用できると考えられる。

2. 先行研究

i. 死刑の賛否に影響する要因

山崎優子他（2014）は、死刑制度一般に対する賛否には、死刑の犯罪抑止力や再犯可能性などを重視し犯罪に対する厳しい態度を示す「厳罰主義」と、死刑は野蛮とする考えや国家であっても人殺しは許されないとする考えなどの「死刑嫌悪」が最も影響するということを明らかにしている。

しかし、佐藤舞他（2012）は、国民が死刑の犯罪抑止力や無期囚の生活などについて正しい知識をもたない傾向にあり、正しい知識を得ることで死刑賛成に対し慎重になる傾向がみられるという結果を出しているので、上記の死刑賛否に影響する要因の研究の参加者が完全に正しい知識に基づいて判断としたとは言いがたい。

この結果を踏まえて私たちは、死刑の賛否に影響を与える要因として新しいものを考えることにした。これまでの死刑の賛否に影響する要因として考えられていなかった「排他主義」と死刑の関係を調べることにし、「厳罰主義」の要素である犯罪抑止力や再犯可能性はアンケートの前提条件で定め、「死刑嫌悪」を代表する要素「命の尊重」も重回帰の参考として調査の対象とした。

ii. 日韓の死刑の比較

今回は日韓両国を対象として調査することを決めていたため、日韓における死刑制度およびそれに対する政府や国民の考え方を比較した。

日本では、山口進（2010）によれば、死刑に懐疑的であった杉浦正健が法相を辞任して以来、「法に基づいて粛々と実行しなければならない」という考え方の元、執行のペースは早まっている。一方国民は、佐藤舞他（2012）が示すように死刑に対し正しく十分な知識を持っていないため、死刑に具体的なイメージが湧かず概念的になっている

るが、犯罪者の情報は氏名や顔写真の公表が許可されているため国民はメディアを通して知ることができる。

韓国では、杉山正（2010）によると、金大中（キム・デジュン）政権以降 13 年間一度も死刑が執行されず、2010 年国際人権団体に「事実上の死刑廃止国」として認められた。しかし法律上死刑制度は存続しており、毎年 3.6 人の死刑判決が確定しているため、死刑囚は増え続けている。金大中をはじめとした政治家の一部は死刑制度に反対し、死刑廃止法案は 3 件国会に提出されたが、法制司法委員会に保守的な法曹関係者が多いこと、韓国の世論調査では 6 割以上が死刑を支持していること、が背景にありすべて廃案になっている。また、日本経済新聞（2009）によれば、2009 年まで韓国では人権保護の観点から犯罪者の身元の公表を禁じており、メディアは犯罪者の氏名や顔写真を報道できなかった。名字は報道できたが、韓国は同じ名字の人が多かったため実質的な匿名性であった。凶悪事件の増加により公開を求める世論が当時高まっていたことが背景にあり、現在は公表が許可されている。逆に凶悪犯罪が増加していても国民の 4 割が死刑に賛成する理由として考えられるのが、韓国に多いキリスト教徒である。また、杉山正（2010）はキリスト教徒の多い韓国では、カトリック教会や一部のプロテスタント団体が廃止活動に熱しに取り組んでいると示している。

以上から、まず日韓では死刑を実際に執行しているかが全く違うが、どちらも法律上死刑は存在しており死刑判決の確定は行われているため、同様のアンケートをとることにした。また、死刑や犯罪をとりまく環境にもいくつか差はあったが、韓国の報道の匿名性も現在はなくなり、キリスト教の死刑の賛否への影響もキリスト教徒内の死刑に対する考え方が様々であることから不明瞭であるため、今回は調査の対象に入れないこととした。

3. 方法

Google アカウントを利用してアンケートを作成した。10 代～80 代を対象に日本人 31 人（男子 14 人、女子 17 人）・韓国人 30 人（男子 18 人、女子 12 人）から回答を得た。

i 質問項目

- ① 一般人の命の価値を 100 としたら、殺人犯の命の価値はどれくらいだと思いますか？0（価値なし）から 100（一般人と全く同じ）の間で教えてください。ただし、この殺人犯は、あなたの見知らぬ他人とします。
- ② 国際結婚をすることに抵抗がありますか？【抵抗がある・どちらかといえばある・どちらともいえない・どちらかといえばない・抵抗がない】の中から選んでください。
- ③ あなたに 10 万円が与えられ、このお金のうちいくらを国内の被災地へ残りを海外の被災地へ募金するとします。あなたは国内の被災地にいくら募金しますか？ただし、両被災地とも被害額は 20 兆円で同じとします。

- ④ 死刑の執行に賛成ですか？0（強く賛成）から100（強く反対）の間の数値で教えてください。ただし、冤罪の可能性は無く、被害者に遺族はおらず、死刑は報道されず（この死刑は犯罪抑止の効果を持たない）、受刑者はあなたの見知らぬ他人とします。
- ⑤ あなたの性別を教えてください
- ⑥ あなたの年齢を教えてください。【10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上】

ii 調査方法

質問項目①～③は世界観に関する質問で、結果を説明変数とした。④では死刑に対する賛否の意識の強さを質問し、結果を被説明変数とした。⑤⑥の質問は性別と年齢層を調べ、結果はダミー変数として扱った。また、関係のない要因による結果の変化を避けるため、一部の質問に一定の仮定を置いた。

4. 研究結果および考察

被説明変数	説明変数	符号・P値
死刑の賛否	国際結婚	－・0.7781
	募金行動	＋・0.7835
	命の尊重	－・0.1857
被説明変数	説明変数	符号・P値
死刑の賛否	国際結婚	－・0.386
	募金行動	＋・0.266
	命の尊重	－・0.218

表1 日韓の母集団を分けて行われた単回帰分析の結果（上が日本、下が韓国）

被説明変数	説明変数	符号・P値
死刑の賛否	命の尊重	－・0.1247
	国際結婚	－・8.3757
	命の尊重	－・0.1800
	募金行動	－・0.452
被説明変数	説明変数	符号・P値
死刑の賛否	命の尊重	－・0.194
	国際結婚	－・0.329
	命の尊重	－・0.1800
	募金行動	＋・0.452

表 2 日韓の母集団を分けて行われた重回帰分析の結果（上が日本、下が韓国）

被説明変数	説明変数	符号・P 値
死刑の賛否	国際結婚	-・0.2843
	募金行動	+・0.6661
	命の尊重	-・0.02270**

被説明変数	説明変数	符号・P 値
死刑の賛否	命の尊重	-・0.0363
	国際結婚	-・0.5240
	命の尊重	-・0.02650
	募金行動	+・0.9751

表 3 日韓を合わせた母集団による回帰分析

被説明変数 Y	説明変数 X	係数	P 値
死刑の賛否	命の尊重	-0.2536	0.02270**

✓ 被説明変数 一般人の命を 100 としたら、殺人犯の命の価値はどれくらいだと思いますか？

✓ 説明変数 死刑の執行に賛成ですか？反対ですか？

表 4 有意になった結果に関する記述統計

日本人 31 人と韓国人 30 人からサンプルを集めた結果、日韓を合わせたサンプルの一部や日韓を区別して行った回帰分析に全ての説明変数で有意の結果を得ることができなかった（表）。しかし、日韓のサンプルを合わせた母集団と「命の尊重」を表す説明変数との間で、係数 -0.2536、P 値 0.0227 で 5% の有意水準において、有意であることが分かった（表 1）。しかし、日韓を合わせた母集団から日本と韓国を分けて説明変数「命の尊重」と被説明変数「死刑の賛否」のサンプルを分析したら、日韓の平均値での違いが存在することが分かった。

まず、説明変数「命の尊重」に関する平均値は、日本 55.3・韓国 27.7 と大きな差を見せた（図 1）。また、ここで比較的日本人が韓国人より犯罪者（殺人犯）と一般人の命に差を置かない、つまり、人間の命を尊重していると解釈できる。次に、被説明変数の「死刑の賛否」に関する平均値においては、日本 61.9・韓国 68.8 でその差は大きくなかった。この平均値を利用して T 検定を行った結果、死刑の賛否の平均値では有意ではないが、命の尊重の平均値では有意であるという結果を得ることができた。

	日本	韓国	P(T<=t)両側 (0.05)	t 境界値 両側 (2.000298)	有意性
死刑の賛否	55.3	27.7	0.14414>0.05	2.000298> -1.47987	あり
命の尊重	61.9	68.8	0.000682<0.05	2.000298< 3.5829	なし

表 6

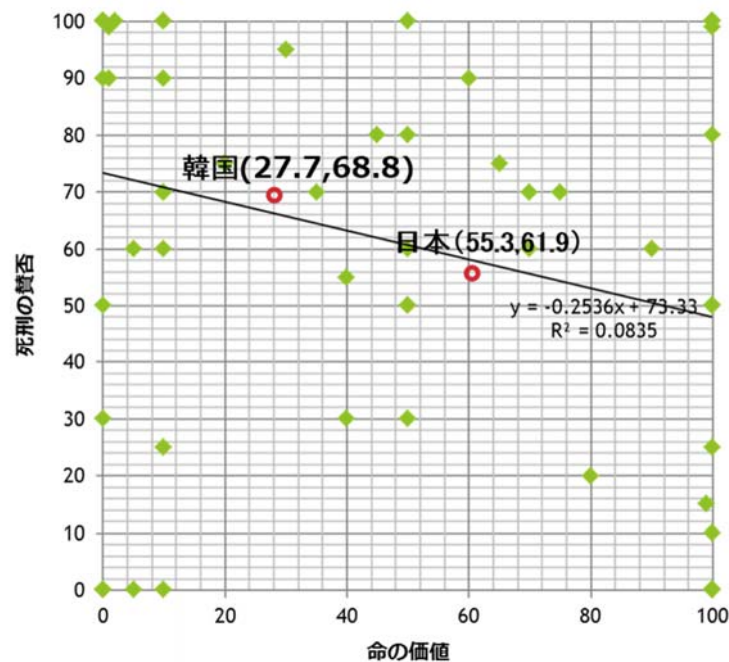


図 1

上記の結果から両国において「命を尊重」する世界観は「死刑の賛否」に影響を与えているということが分かった。しかし、世界観の差と二つの相関は有意であるが、傾き（決定係数）が小さいためパズルのような結果になったと考えられる（図 1 参考）。ここで考えられることは、集めた標本のばらつきが大きかった点から日韓の違いに他の要因が影響しているということである。

そのため、今後の課題として求められるのは日韓の「命の尊重」や「死刑の賛否」に影響するほかの要因を研究することである。また、その要因として考えられるものは先行研究から①死刑の執行の対象が違ったこと（韓国の場合政治犯が多く、日本の場合は凶悪犯罪者が多い）②死刑や犯罪者に対する政府の態度の違いが存在すること等がある。

参考文献

- ◇ アムネスティ日本 HP http://www.amnesty.or.jp/human-rights/topic/death_penalty/ (2015/9/17)
- ◇ 死刑をめぐる論点 —死刑存置論と死刑廃止論— 国立国会図書館 ISSUE BRIEF NUMBER 651(2009.10.22.) <http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/issue/0651.pdf> (2015/9/17)
- ◇ 日本語表現辞典 Weblio 辞書 <http://www.weblio.jp/content/排他主義> (2015/9/17)

- ◇ 山崎優子・石崎千景・サトウタツヤ（2014）死刑賛否に影響する要因と死刑判断に影響する要因．立命館人間科学研究 第 29 号．81—94
- ◇ 佐藤舞・木村正人・本庄武（2012）死刑をめぐる「世論」と「輿論」審議型意識調査の結果から．福井厚（編）死刑と向き合う裁判員のために．現代人文社，65—85
- ◇ 宮地ゆう・杉山正・国末憲人・古谷浩一・北川学・田中光・山口進・渋谷享子（2010）死刑の世界地図 The Death Penalty．朝日新聞グローブ GLOBE 第 50 号 http://globe.aahi.com/feature/101018/04_4.html（2015/9/27）
- ◇ 島谷英明（2009）凶悪事件容疑者、顔写真の公開可能に、韓国、世論高まり法改正へ．日本経済新聞 2009 年 7 月 15 日朝刊 p.38